



データ送信ツール

バージョン 1.xx

取り扱い説明書

# 1.目的

Epson製品を使うユーザーが ESC/POSコマンド情報と本実行ツールを活用することで、コマンド使用方法の理解促進を図ることを目的としています。本ツールはスクリプトファイル内に記載したコマンドデータをプリンタに送ります。通常プリンタはバイナリデータとして処理するため、プリンタ側の処理状況を理解しづらいですが、本ツールを用いることで簡潔にバイナリデータを記述することができます。

# 2.サポート機種

1ステーション系プリンタ（TM-C3400等ラスタ形式のインクジェットプリンタは除く）

# 3.サポート OS

Windows 8 (32/64bit)  
Windows 7 SP1 (32/64bit)  
Windows Vista SP2 (32bit)  
Windows XP SP3 (32bit)

# 4.使用方法

## 4-1.スクリプトファイルの記述方法

[行頭文字]

行頭文字には特別な意味があります。

- ' :コメント行
- ! : その行の記述を画面表示
- . : その行で入力待ち
- \* : 指定ミリ秒待ち（例 \*1000）

[10進数]

数字列はそのまま値として出力されます。

1 2 10 100 255 ...

[16進数]

3つの方法で16進数が表現できます。

- 1) \$文字 \$30\$31...
- 2) h文字 30h31h...
- 3) 0x文字 0x30 0x32 0x33 ...

[コード]

コード名は数値に変換され出力されます。

	HEX	DEC
NUL	00h	0
SOH	01h	1
STX	02h	2
ETX	03h	3
EOT	04h	4
ENQ	05h	5
ACK	06h	6
BEL	07h	7

BS	08h	8
HT	09h	9
LF	0Ah	10
HOM	0Bh	11
CLR	0Ch	12
CR	0Dh	13
SO	0Eh	14
SI	0Fh	15
DLE	10h	16
DC1	11h	17
DC2	12h	18
DC3	13h	19
DC4	14h	20
NAK	15h	21
SYN	16h	22
ETB	17h	23
CAN	18h	24
EM	19h	25
SUB	1Ah	26
ESC	1Bh	27
FS	1Ch	28
GS	1Dh	29
RS	1Eh	30
US	1Fh	31
SP	20h	32

#### [文字]

キーワード以外の文字はそのまま文字として出力されます。

スクリプト中で¥1文字をパラメータまたは文字データとして扱いたい場合は“¥¥”と記述してください。

#### [文字列]

文字列は “” 記号で囲みます。

#### [エスケープ文字]

特殊文字を扱うために以下のようなエスケープ文字を使います。

	HEX	DEC
¥¥	5Ch	92
¥'	27h	39
¥"	22h	34
¥0	00h	0
¥r	0Dh	13
¥n	0Ah	10

¥xXX XXh XX

## 4-2.各インターフェイスの実行方法

### [USBインターフェイスの実行方法]

プリンタ側がUSBベンダー定義クラスの場合:

```
senddat.exe <scriptfile> TMUSB
```

プリンタ側がUSBプリンタークラスの場合:

```
senddat.exe <scriptfile> USBPRN
```

送信データを表示したい場合:

```
senddat.exe -t <scriptfile> TMUSB
```

### サンプル例1)

```
コマンドプロンプト
C:\¥senddat100>senddat.exe -t B-p628.txt TMUSB
Send data tool version 1.00 (20130215)
Copyright (C) 2009-2013 SEIKO EPSON Corp.

-----
>000000: 29 1Dh GS
>000001: 103 67h g
>000002: 50 32h 2
>000003: 0 00h NUL
>000004: 20 14h DC4
>000005: 0 00h NUL
<
<          000000: 95 5Fh _
<          000001: 49 31h 1
<          000002: 48 30h 0
<          000003: 50 32h 2
<          000004: 51 33h 3
<          000005: 49 31h 1
<          000006: 0 00h NUL
-----
Total Time = 2.203 sec
C:\¥senddat100>
```

ホストから送信したデータ

プリンタから送られてきたデータ

### サンプル例2)

```
コマンドプロンプト
C:\¥senddat100>senddat.exe -t sample.txt TMUSB
Send data tool version 1.00 (20130215)
Copyright (C) 2009-2013 SEIKO EPSON Corp.

-----
Display line is starting ! character
Pause line is starting . character
>000000: 48 30h 0
>000001: 49 31h 1
>000002: 50 32h 2
>000003: 51 33h 3
>000004: 13 0Dh CR
>000005: 10 0Ah LF
>000006: 48 30h 0
>000007: 49 31h 1
>000008: 50 32h 2
>000009: 13 0Dh CR
>00000A: 10 0Ah LF
>00000B: 51 33h 3
>00000C: 52 34h 4
>00000D: 53 35h 5
>00000E: 13 0Dh CR
>00000F: 10 0Ah LF
```

```
>00001E: 115 73h s
>00001F: 116 74h t
>000020: 114 72h r
>000021: 135 69h i
>000022: 110 6Eh n
>000023: 133 67h g
>000024: 50 32h 2
>000025: 13 0Dh CR
>000026: 10 0Ah LF
>000027: 34 22h "
>000028: 13 0Dh CR
>000029: 10 0Ah LF
>00002A: 39 27h '
>00002B: 13 0Dh CR
>00002C: 10 0Ah LF
>00002D: 32 5Ch ¥
>00002E: 13 0Dh CR
>00002F: 10 0Ah LF
>000030: 0 00h NUL
>000031: 13 0Dh CR
>000032: 10 0Ah LF
-----
Total Time = 5.781 sec
C:\¥senddat100>
```

上記サンプルの印字結果は以下のとおりです。

0123
012
345
678
String1
String2
“
‘

[シリアルインターフェイスの実行方法]

senddat.exe <serial-options> <scriptfile> COMx [x=1, 2,...]

[イーサネットインターフェイスの実行方法]

senddat.exe <scriptfile> IPAddress

[パラレルインターフェイスの実行方法]

senddat.exe <scriptfile> LPTx [x=1, 2,...]

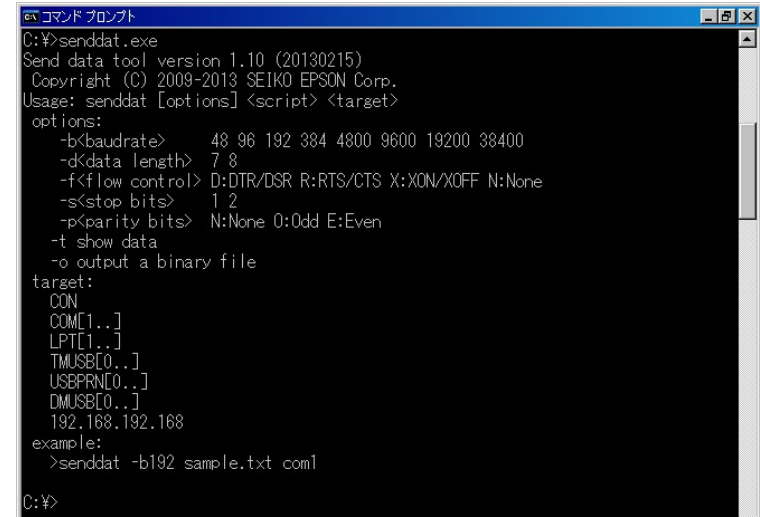
4-3.送受信文字の表示に関して

スクリプト内で記載される一部の文字はツール画面上で以下のように表示されます。

スクリプト内の記載文字	ツール画面上の表示文字
¥¥	¥
¥”	”
¥’	’
¥x■■■	■■■h (16進数の値)

4-4.オプション機能に関して

オプション機能は、コマンドラインでsenddat.exeを実行し、ヘルプ情報として確認することができます。(下図参照)



- t 送信データ(ホストから送信したデータとプリンタから送られてきたデータ)を表示する
- o バイナリファイルを送信する
- wN データ送信完了後、N秒経過時点で、プリンタとのネゴシエーションが終了していなくてもSenddatを強制終了させる

実行例) senddat.exe -w2 sample.txt 192.168.192.168

## 4-5.実行エラーへの対処方法

□スクリプトファイルの記述が不適切な場合には、スクリプトファイル送信実行時にアプリケーションエラーやRuntime errorが発生します。実行エラーが発生した場合には、スクリプトファイルの記述方法を見直し、再度実行してください。

□EPSONドライバなど PCS (Port Communication Service)モジュールがインストールされている場合、通信ポートが占有され、本ツールがデバイスと通信できません。その場合、以下の方法を実行してから、本ツールを実行してください。

- ・スプーラーを停止する(コマンドプロンプトから”net stop spooler”を実行する)
- ・スプーラーを停止する(コマンドプロンプトから”net stop EpsonPuras”を実行する)
- ・次に、PCSを停止する。(コマンドプロンプトから”net stop epson\_port\_communication\_service”を実行する)なお、上記を実行し、本ツール使用後には、以下の方法で以前の状態に戻してください。
- ・PCSを起動する。(コマンドプロンプトから”net start epson\_port\_communication\_service”を実行する)
- ・次に、スプーラーを起動する。(コマンドプロンプトから”net start EpsonPuras”を実行する)
- ・スプーラーを起動する。(コマンドプロンプトから”net start spooler”を実行する)

## 5.制限事項

□USBプリンタークラスにおいて、本スクリプトを使用する場合はプリンタの受信バッファ容量を4Kbyte(工場出荷時設定)に設定してください。(受信バッファ容量が、45Byteの場合、正常に印字されない場合があります)

□送信先targetが1つしか指定できないため、複数のインターフェイスで接続されたシステムを1つのスクリプトで制御することはできません。(例: プリンタ:USB接続、カスタムディスプレイ:RS-232C接続、のようなシステムがあった場合、プリンタとディスプレイを連携制御するようなスクリプトは作成できません)

